

パブリック・コメント意見対応表（要約前版）

番号	ご意見	町の考え方
1	<p>学校給食基本構想について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自身としては、給食方式は好まないが今日のような状況ではやむをえないと思っている。本基本構想には、有事の際の保護者の立ち位置が記されていないように思うが必要は無いのか。 <p>突発的な出来事はどこにでも起こりうる今日ですので、そのような時、保護者としての役割もスムーズにきちんと果たせるような文言がないのか検討を。</p> <p>例えば、急に給食がないとなったときは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭でおにぎり対応する。 ・家庭でパン対応する。（どこのコンビニでもある）など保護者として、苦情的なことばかりでなく建設的な意見と対応策などの決めごとを文言として記すことが重要と思う。 	<p>学校給食を実施する場合、その提供は設置者（精華町）の責任において実施するべきものと考えております。</p> <p>しかし、停電、断水などの影響で学校給食が実施できない場合、保護者の協力をいただきながら弁当持参の昼食実施となる場合も想定されるため、具体的な方法は個別に対応することとして、以下のとおり修正します。</p> <p>第3章 学校給食に関する基本方針 基本方針4 災害など非常時における町の防災拠点としての機能</p> <p>集中豪雨や地震などの災害により、住民の被災やライフラインの断絶等が発生した場合に、非常食や炊き出し等の提供など、学校給食センターが防災拠点として役割を果たすことができるよう必要な機能を検討し、整備します。<u>また、これらの事情により学校給食が提供できない場合は、関係機関や保護者の協力を得ながら適切な対応を進めます。</u></p> <p><u>生徒へは</u>災害時に対応できる防災レシピの紹介や非常食の備蓄など、防災教育を図ります。</p>
2	<p>P17の建築面積は、基準面積に準じ、1001人～2000人 884+43+14=941㎡ 940㎡を想定してほしい。</p> <p>小学校と同じように自校炊飯に希望 (センター炊飯)</p>	<p>給食センターの建築面積については、配送車の回転場、駐車場、燃料庫など敷地全体のレイアウトを考慮しています。あわせて、炊飯設備やアレルギー室をはじめ本構想を実現するうえで必要な設備が確保できるよう、</p>

<p>3</p>	<p>給食施設面積は必要、アレルギー対策室も必要。</p> <p>精華南中は対象人数が少ないので、ご飯は炊飯ジャー方式も検討してほしい。(寒い冬に温かいご飯を)</p> <p>まず、町が中学校給食の実施に向けた明確な指針づくりを進めておられることに敬意を表します。</p> <p>二点ほどご意見を申し上げます。</p> <p>①町の未来に希望を抱ける構想を</p> <p>少子高齢化を見越しての施設転用(共用)は住民アンケート結果からも、コンセンサスを得られているものと思います。</p> <p>しかし、子育て世代が住みよい町として評価されてきたこともふまえ、中学校給食の実施により一貫した食育を行え、さらに評価される町としては、若干物足りなさを感じます。</p> <p>中学校給食の実施と、センター施設の建設をすることは、食を通じてあらゆる世代の健康増進や健康寿命を延ばす、あるいは子育てや高齢者の生活を地域でささえ合う町であるとして、少子化や子育て世代の流出を食い止め、人をよびこむことができる。いわばまちづくりの柱にできる事業であると考えます。</p> <p>大阪府吹田市や箕面市といった子育て支援による活性化を掲げる他の自治体例もあります。</p> <p>我が町が昭和 30 年代から取り組み継承しようとしているこどもを守り育てる町として、内外へ取り組みを発信できるような施設としてほしいですし、こういった行政ご担当の方の思いも、基本構想に加えられることをご提案いたします。</p>	<p>設計段階で調整していきたいと考えています。</p> <p>また、生徒が適温で喫食できるよう、ご提案の方式も参考にしながら適切な設備を選定していきます。</p> <p>①子どもたちの食育と合わせて、あらゆる世代の食育もご意見のあったとおり豊かな人間形成や産業の活性化、地域の絆づくりに重要なものと考えています。子育てを行う若い世代の方々へ食の意識を高めることで家庭への広がりを狙うため、小学校などでは給食試食会やレシピの配布などの啓発を行っており、中学校給食が実施されれば、各中学校でも同様の取組ができるものと考えております。</p> <p>また、各世代への食育推進については町食育推進基本方針を中心に進めていくこととなりますが、まずはコミュニティスクールや(地域学校協働本部)学校地域支援本部事業などに携わる地域の方々などへ給食の提供を行うなど、地域と学校を食でつなぐ取組から進めていきたいと考えています。</p>
----------	---	--

具体的には、基本方針3にあるコミュニティの拠点としての機能を、給食センターのみでなく各校の空き教室や地域の施設にも持たせ、給食を一般のかたも食べられるようにすることなど整備されてはいかがでしょうか。

地域の集まりに利用してもらうなど、栄養バランスのとれた食を広く提供できる環境や制度の整備をお願いします。

②今後四年間中学生を送る生徒へも切れ間ない食育環境を

第四章、「中学校給食実施に向けた学校運営上の対応について」で触れておられる通り、昼食時間がどの学校も15分しか設定されてないことは、給食実施を待つのではなく、早急に見直していただくよう、強く希望します。

なぜなら、成長期におけるこどもの食事内容や量、環境に左右され得る食べ方そのものが、その子の体づくりに直接的に影響するだけでなく、その後の人生にも大変重要な要素を含むからです。

一般的に15分以上の咀嚼をもって、摂食に関連する中枢機関が円滑に働き、満腹感や満足感を得られます。先に野菜を食べる、ゆっくりよく噛んで食べる、と言うのは糖尿病学会でその有効性が証明されていることもあり、正しい食の在り方として重要です。

それから、学校で15分、と設定していても、授業が延長したり、教室移動、次の時間の準備などなど、10分を切ってしまうのは容易に想像できます。

早食いで咀嚼をしない、そしてそのような柔らかい食品を飲み込むように摂取される食べ方は、生活習慣病発症の一因となり得ます。

食育基本法が制定され、こどもの食育に関

②ゆっくり良く噛んで栄養バランスの取れた食事そのものを楽しむ、あるいは食を通して仲間同士のコミュニケーションを図ることは成長過程における子どもたちにとって健全な心身を成長させる良い機会と認識しております。一方、学校現場では生徒指導上の問題、あるいは授業や部活への影響などの課題もあります。

教育委員会では、子どもたちの望ましい昼食時間やその与える影響を研究しながら、ご意見のあった趣旨を踏まえて中学校の食育環境を充実していきたいと考えていますので、基本構想を以下のとおり修正します。

第3章 学校給食に関する基本方針

基本方針1 食育の観点からの学校給食

給食実施にあたっては、旬の食材を使用して季節感を出したメニューの提供や、古くから伝わる地域の伝統食や行事食の提供、生徒たちが考えたバランスの良い給食メニューの提供、給食を通じたコミュニケーション能力の育成、食品ロスの削減など環境に配慮した学びなど、栄養教諭を中心とした食育の充実に努めます。また、昼食時間を食育の時間として活用できるよう望ましい食育環境をめざします。

給食を実施することで家庭の弁当作

<p>4</p>	<p>し行政や学校が先導することが求められている今、学校が食を二の次にするモーレツサラリーマン製造所となつてはいけません。</p> <p>また、成長に必要な十分な栄養を体に取り込む力は、毎日の食事量や食べ方で醸成されま す。昼食時間に間に合わないからと、小さな 弁当になってしまうことは、栄養不足や、帰 宅後の食事内容にも影響してくる可能性が あります。成長期の仕上げの時期であるとい うことは、消化吸収機構の発達の仕上げとも いえます。</p> <p>食事に気をかけることをおろそかにする と、偏った食事やサプリメントの安易な摂取 などにもつながるほか、吸収機能が十分に発 達しないことで、高校以降ミネラル不足が指 摘されることもあります。20 歳までの食事 が骨の発達に影響することは明らかで、女性 に関してはその後の妊娠出産を経て生涯に わたるからだの状態を決めると言っても過 言ではないわけです。</p> <p>この時期における食と環境づくりの大切 さについて、学校の先生方にも認識を共有い ただきたいと思います。</p> <p>何度かこの件に関し保護者としてお願いを 試みております。</p> <p>行政の立場からも働きかけていただきたい ですし、基本構想のひとつに、今ある中学 生への食育の充実として、学校での昼食時間 設定の拡大を挙げていただきたいです。</p> <p>精華町学校給食基本構想(案)を読ませてい ただきました。</p> <p>「安心安全」「食育」「地産地消」など、求め ているものが全て入っていて素晴らしい内 容だと思いました。</p> <p>食は心身ともに大きな影響を与えるものな ので、ぜひ中学校の早期給食実施を希望しま す。</p>	<p>りにかかる時間の負担を軽減し、家庭で の朝食が充実したものとなるよう、また、 欠食する生徒が減少するよう、啓発に努 めていきます。</p> <p>第 4 章 中学校給食の実施に向けて</p> <p>1. 学校運営上の対応について</p> <p>(1) 時間割の見直し</p> <p>学校給食は教育の一環として、教育課 程上の重要な学校教育活動です。中学校 給食を実施すると、配膳時間、片付け等 の時間が必要となり、現行の昼休みの時 間だけで喫食することが難しいと考えら れます。そのため時間割の見直しが必要 となりますが、このことは、授業時間の 確保や部活動の時間など学校運営にも関 係します。<u>しかし、昼食時間を食の学び の時間、成長過程における子どもたちの 望ましい食生活を形成する時間と捉えな がら</u>生徒の活動時間への影響が最小限と なるよう工夫していきます。</p> <p>学校関係における大型事業として、これま で耐震性に課題のあった精華中学校の改築、 そして中学校への空調整備が完了しました。 しかし、この後も小学校への空調整備が控え ており、この課題を達成するため、現在財源 の確保に努めており、早期の工事着手完了を</p>
----------	--	---

<p>子どもが現在中学校に通っており、毎日お弁当を作っていますが、どうしても具材が同じような物になってしまいます。</p> <p>量も足りているのか？と思うほど小さなお弁当箱です。</p> <p>女子はあまり大きなお弁当箱を持って行くのも恥ずかしいのかな(周りの目を気にする年頃) と思ったりします。</p> <p>育ち盛りの中学生ですので、給食でバランスよくいろいろな物を食べて栄養をとってくれればいいなと思います。</p> <p>下の子が現在小学生ですので、中学生になる頃には給食が実施されていることを強く望みます。</p> <p>もう何年も前から親にとっては「いつかな？まだかな？」という給食問題ですので、ぜひ早急によろしくお願いいたします。</p>	<p>目指しているところです。中学校給食実施は保護者のみなさまをはじめ町民のみなさまが注目されている事業でもあり、町としてもその実現に向け取組んでいく予定です。</p>
--	--